

スイス、ローザンヌ

世界には十分な CO₂ 貯留資源が存在する

2016年11月16日:スイス ローザンヌで開催されている The Greenhouse Gas Control Technologies (GHGT) 第13回会議において、グローバル CCS インスティテュートは「世界には将来の気候変動温度目標の達成に必要なとされる容量を超える CO₂ 貯留資源がある」と述べた。

Chris Consoli 博士(グローバル CCS インスティテュート、アジア・パシフィック地区 貯留担当シニアアドバイザー) は、世界中の高レベル排出国のほぼすべてにおいて実質的な貯留資源が存在すると述べた。

「世界の CO₂ 貯留資源に関する評価の大半が終了しています。例えば、米国エネルギー省 (DOE) が昨年公表したアトラスによれば、北米だけで 2 兆～20 兆トンの貯留資源が存在するとされています。」

「国際エネルギー機関 (IEA) は、排出量削減目標の 12 パーセントを CCS が担うには、約 900 億トンの貯留容量が必要であると予測しています。2050 年までの計算を行うと、年間約 60 億トンに相当します。

このことから、問題の所在は貯留資源にあるのではなく、CCS の展開にあることが分かります。」

中国の他に、大規模な貯留資源を有すると見られている(公表済み)国には、カナダ、米国、ノルウェー、オーストラリア、英国が挙げられます。

モロッコのマラケシュで開催されている COP 22 において、Brad Page (グローバル CCS インスティテュート CEO) は、潜在的な CO₂ 貯留資源を利用可能にすることがパリ協定の 2°C 目標を達成するために重要な前提条件であると述べています。

「インスティテュートによる最新の評価によれば、貯留資源と IEA 目標を比べた場合、膨大な量の貯留ポテンシャルがあることが示されています。」

Brad Page 氏によれば、各国は貯留資源についてそれぞれ異なる評価を実施しており、多くの国々は完全な評価に至っていないため、大きな貯留ポテンシャルを有する初期兆候を示す国が多数あるとのこと。これらの国々にはインドネシア、ブラジル、メキシコなどが含まれています。

CCS は安全で実績のある技術であり、具体的な温室効果ガス削減技術として 20 年以上も利用されてきています。

「CCS の導入には、認知、投資、政策コミットメントが不可欠です。」

現在、世界中で 15 件の大規模 CCS プロジェクト(年間 3000 万トン近くの CO₂ 回収能力)が操業中であり、今後 12 カ月以内にはさらに 6 件のプロジェクトが操業を開始すると予想されています(うち 3 件は米国にあり、2016 年中または 2017 年初めに操業を開始する予定)。これら 21 件の CO₂ 回収能力は合計で年間約 4000 万トンになります。」

Brad Page 氏は、貯留プロジェクトを選択し、特徴付け、安全に操業し、終了し、閉鎖するための技術はすでに利用可能であると述べています。さまざまな規模で安全に CO₂ の地中貯留を実施できることは、すでに世界中のいくつも

のプロジェクトにおいて成功しており、実証されています。様々な評価から、CCSの展開を支援する貯留資源は膨大であり、今後数十年にわたるプロジェクトに対応する容量を超えていることが分かります。

「必要とされているのは、政府のコミットメント、投資とインセンティブ、そして全面的なポリシーパリティなのです」

COP 22における気候変動に関する議論において、CCS問題は特に注目を集めています。

報道関係のお問い合わせは、下記の担当者までお願いします。

Antonios Papaspiropoulos +61 401 944 478, Antonios.Papaspiropoulos@globalccsinstitute.com

Jake Lynn +202 895 2793, Jake.Lynn@globalccsinstitute.com

Jelena Susa +61 413 269 410, Jelena.Susa@globalccsinstitute.com